

古文 練習問題 ③ 『竹取物語』

次の『竹取物語』の一節を読んで、あとの問いに答えなさい。

翁、こは、(1)なでふこと(2)のたまふぞ。竹の中より見つけこえたりしかど、菜種の大きさ(3)おはせしを、わが丈立ち並ぶまで養ひたてまつりたるわが子を、何人(4)かむかへきこえむ。まさに許さむや、と言ひて、われこそ死なめ、とて、泣きののしること、いとたへがたげなり。

*なでふことのたまふぞ 何をおっしゃるのですか、とんでもない。*何人かだれが。*まさに許さむや決して許しません。*われこそ死なめわたしこそ死んでしまいたい。*たへがたげなり 我慢することができないという様子である。

一、(1)～(4)を現代かなづかいになおしなさい。

(1) () (2) ()

(3) () (4) ()

二、二重線「いと」の意味を書きなさい。

() ()

答え

- 一、(1) なじょう (2) のたまふ (3) おわせしを (4) むかえ
二、とても

解説

古典の言葉 古語(2)

たがふ ちがう

つとめて 早朝。

にはかに 急に。

ののしる 大声で騒ぐ。

のたまふ おっしゃる。

はづかし 立派だ。

ひねもす 一日中。

もうづ お参りする。

めでたし すばらしい。

をかし おもむきがある。